

教授するのではなく、寧ろ子供の生活作業を中心として自然に何か教課をやらして行く、云ふ事なんです。此處の小學校なんかでやつて居るのは月々の、まあ子供に適した行事を中心として材料を決めておいて、それでその間から色の教科が出て来る様にする。それですから多くの場合に於て先づ事實を直観する。直観してその得た觀念を今度は發表する云ふ事になるから、言語發表にもなり、文字の發表にもなり、繪の發表にもなり、立體的に手工の様な發表にもなる。勿論その間には多くの取扱ひもあるが、根本は直観を作業でやる云ふ事になります。するに、地方の人なき、それじや修身の時間を一週二時間なさないのですか質問します。其處の所が大切な點だと思ふ。つまり今迄の小學校で教科を配當する様に、課程表を決めて一週何時間云ふ事を決めて、詰り指導する談話、それから指導する觀察、指導する手技、さうして、さうしてその材料を決めて行く行き方、先づ材料から自然に出て来る云ふ立場、それから一日の中で設定的保育の時間は二回なり一回にやつてその他は所謂自由遊び云ふ事に

してゆくの、其處で大きな問題が分れて来る。先程の話もさう云ふ問題だと思ふ。

(渡部) 時間を決めてないで生活を中心として、製作的なものを先きに決めて、初めの中は一週間で纏める材料、段々に進んで二週間三週間、いくら發展してもいゝ様に材料を探つて進んで行き度いのですけれども、それが中々旨く行かないのです。

(倉橋) 今日の座談會は渡部さんを中心に悩みを聞くの會になりますか。(笑聲)

(渡部) やめます。(笑聲)

○東京市で研究されたもの

(倉橋) 東京市では斯う云ふ事に於て御研究になり御調査になり、御決定になり御實驗になつて居るに聞いて居ますが、それをですね。一つの實行されて居る實例として何方かに承はる事が出来たらいいと思ひます。

(堀) それが是非必要だ。

(倉橋) 柴田さんに御願ひしませうか。

(柴田) 檜山さんさうぞ。

(檜山) 今夜の題目があゝ云ふ様に書いてありましたから、書いたものだけは持つて来たのでございますが、それがさう云ふ様に實行されて居る、云ふ事は別問題として聞いて頂き度い。これが決りましたのは昨年か一昨年……。

(柴田、水野) 一昨年。

(檜山) 大騒ぎをやつて夜も寝なかつた事を覚えて居りますが、過ぎて了ひましたらすつかり忘れて了つて……。

書いてある事だけを讀んで見れば。保育項目は自由遊び及び躑躅、さう云ふ風に先づ分けて、それを何回云ふのでなく、時數になつて居りますから、何時間々々々とし……。

(倉橋) その通り仰有つて下さい。

(檜山) 毎週の保育時數になつて、年齢満三歳から四歳迄の組、四歳から五歳迄の組、五歳から六歳迄の組、三通りに分けてございます。初めの満三歳から四歳迄のは唱歌遊戯、毎週保育時數三になつて居ります。観察一談話二手技が二、自由遊び及び躑躅が十六になつて居ります。一週

保育時數二十四時間に就てゑす。それからその次の組が唱歌遊戯が四時間、観察談話は先の組と同じでございます。

手技が二だつたのが三になつて居ります。それから自由遊び及び躑躅が十四。それから満五歳から六歳のは、今の四歳から五歳迄は全部同なしでございます。それで其處に色々書いてあるのでございますが、「各保育項目は凡てに幼児の生活に則し……」

(倉橋) ちゃん讀んで下さい。

(檜山) 「保育項目は互ひに相關聯せしむべきは勿論、幼児の心身の發達に鑑み、取扱ひ方法、時間の長短、宜しきを得るを要す。但し土地の状況、季節によつて保育項目の保育時數を増減する事ある可し」さう云ふ風になつて居ります。

(堀) その場合にですね。時數云ふのは小學校の様な意味の時數ですね。

(檜山) 斯う云ふ事を何うしてもしなければならぬ云ふきめです。

(倉橋) 堀さんの御尋ねになつたのはその時數は何か

いふことです。私もそこをよく聞きたい。六十分云ふのですか。

(水野) 私、回数も思つてやつて居るのでございしますが、幼稚園で何時間云ふ事は出来ないと思ひます。

(堀) 併し總計二十四時間になつて居りますが。

(倉橋) 全體で何うしても二十四時間はしなければいけないと思ひますが。

(檜山) その時三時間になつても四時間になつても全體として……。

(堀) 回数を決めず、大體六回やつても三回でも凡そ三時間になる。小學校で言へば、十五分の休憩と四十五分の授業を併せて何時、ミ斯うなつて居るのと同じし意味でせう。回数云ふ意味は這入つて居ないのでせう。

(倉橋) そこははつきりして居る筈でせうがね。

(檜山) はつきりそれは書き表はしてないので、いろいろに知られて居るかも知れません。

(倉橋) 東京市は廣いですからね。(笑聲) 時間数が如何なる意味を持つか、云ふ事を暫くおいたとして、所謂配

當上の比を示して居る譯であるのでせう。

(土川) さうですね。

(倉橋) その中で何が一番多くなつて居りますか。

(檜山) 自由遊び及び躑躅十六時間。

(倉橋) 所謂保育項目としては？

(檜山) 唱歌遊戯四時間。

(倉橋) もう一度皆言つて見て。

(檜山) 唱歌遊戯が、……大きい組で？小さい組で？

(倉橋) 大きい組で。

(檜山) 唱歌遊戯四時間觀察が一談話が二、手技が三、う致します。これは大きい組でございしますから、自由遊びや躑躅が十四時間。

(倉橋) さうするに小さい組で……。

(檜山) 違ひますのは唱歌遊戯は三になつてその時間は手技は二になつて、其處からも時間が自由遊びの方に……十六時間。

(坂内) 配當原則で二時間は手技をしなければいけないのですね。

(檜山) 配當原則云ふ話があつたので。

(坂内) 二時間云ふものはなんかやらなければならぬ云ふ事になるのですね。自由遊びでやつた事でもいけな
いのですか。

(倉橋) これはいろいろ御研究の結果で、澤山教へられるところがあつたと思ひますが、兎に角此處に一つ明かなことは唱歌遊戯を第一におき、手技を第二におき談話を第三におき觀察を第四位に保育項目を配當する一つの立て方がある譯ですね。そこで市のきめ方さいふここから離れて、問題を保育項目の一つへ持つてゆきませう。これが、實は大に大事なことですからね。土川さんに一つ幼稚園保育としての唱歌遊戯云ふものがさう云ふものであるか、或は何うでもなるものか。従つてそれを何うして行くか、別格に扱つていゝか、そこらの點を伺ひませう。

○遊戯に就て

(土川) 何時鐘先が向くかと思つてゐたら、えらい所をもつて來られました。(笑聲)

私は自分の幼稚園に於きまして回数で分けて豫定は立て居ります。それで私はこの豫定を立てる前にこの項目の中のそれらの目的を色々考へまして、手技が一番多くまつてゐます。私は別に唱歌遊戯を特別に多くする理由は見付かりません。子供を纏める爲にすぐ歌はしましたりする人がある。唱歌が下手な人程ね。

(倉橋) 至言ですな。

(土川) 自分の趣味の傾向によつてその項目に非常に片寄つて了ふ。それを私は分けて居りますが。併し兎に角、保育ミ子供の生活との關係を考へて行くミ、手技が一番重いのミ斯う考へて、それに重きをおき、唱歌は三十分づつ一週間二回づゝ位です。但しその時は本當に唱歌を唱歌として見て行く。曲の氣持や緩急も表はせる様にして、子供の感情を養つて行き度い。斯う云ふ點が随分缺けてやしないかと思ふ。自分ではそれを考へてやつて居ります。唱歌なきは一週に二回遊戯は三回にしてそしてその中に皆な入れてやつて居ります。手技が四回、遊戯が三回、唱歌が二回、談話が二回、觀察が一回斯う云ふ豫定を立て、おい